

長期インターンシップ受入れの成果と課題

三重大学産学官連携アドバイザー

株式会社百五経済研究所

地域調査部部长・主席研究員 中畑裕之

弊社、百五経済研究所では三重大学社会連携研究センターの特定事業研究員(イノベーター養成のためのサンドイッチ教育)小俣麻友氏を、平成23年12月から3月にかけて、3ヶ月以上にわたりインターンシップとして受け入れた。その内容と成果、課題について報告したい。

1. インターンシップの実施概要

(1) 企業で働くための実践的スキルの習得

弊社で働くための基礎スキルとして、会社の概要と各部署や人の仕事・役割、名刺交換や来訪者への対応、電話対応(電話取り)、お茶だし等について、研修をまず行った。以降、日々の業務、企業訪問、アンケート調査の実施の場などでのOJTにより、私どものようなサービス業で働く実践的スキルを身につけていただいた。

また、当社以外の企業も見て、企業の活動、経営者の考え等も知っていただくため、6社・団体の企業訪問(ヒアリング)に帯同してもらい、その結果を報告書に取りまとめてもらった。併せて、その企業に訪問していない報告を受ける人に分かる、伝わる文章にできるよう、かつ、限られたスペースにまとめられるように指導を行った。

(2) アンケート調査「三重県民のエネルギーに関する意識調査」の実施

三重大学地域戦略センターから百五経済研究所に委託を受けたアンケート調査、「三重県民のエネルギーに関する意識調査」を、アンケート票の検討・作成から配布・回収、分析まで、小俣氏が中心となって実施した。

この調査の実施・指導には、三重大学地域戦略センターの西村教授、熊田先生に、深く関わっていただいた。

調査の概要は以下のようなものである。

【目的・調査概要】

三重県民の将来のエネルギー源に対する考えや地域で取り組みそうな再生可能エネルギー源に関する考えを把握することを目的として、エネルギーに対する関心、将来のエネルギーに関する考え、エネルギーの地産地消への意識などの設問を設け、個人を対象に調査を行った。

【調査方法】

- ・調査期間：平成24年1月～平成24年2月
- ・三重県内各地の市役所、道の駅、百五銀行営業店のロビー、三重県各地で開催されたセミナー会場等において、来訪者・入場者に小俣・中畑でアンケート票を手渡しにて協力・記入を依頼し、回収した。また、一部であるが観光施設に協力依頼して配置し、来場者に記入いただいたものを回収した。

【調査結果・分析】

- ・三重県全域で1,175名の皆様のご意見を集計した。
- ・県内を北勢、中勢、南勢、伊賀、東紀州の5地域に分け、地域による意見の違いに特に注目し、全体の傾向と共に地域別、男女別、年齢別、職業別の分析を行った。

2. 長期インターンシップの成果

(1) 企業で働くための実践的スキルの習得

小俣氏自身の評価では、「電話対応や名刺交換といった、社会で働く上で必要な基本的マナーを、ある程度身につける事が出来た」「報告書の書き方を勉強させていただいた」というものであった。

しかし、一般的に新入社員は電話を取ることに恐怖を感じるが、積極的に、誰よりも早く取することを心がけてもらい、当社職員から大変助かっているとの評価を得ていた。1ヶ月過ぎる辺りからは、社内のどの部署が・誰がどのよう

な業務を行っているのか、対応できるのかを把握した対処ができるようになり、担当者不在の際の対応もスムーズなものとなった。

また、報告書の内容、文章についても、作成にまだ時間がかかることもあったが、格段の進歩が見られた。

小俣氏について特に秀でていた点として、社内でのコミュニケーションが自然に出来ていたことが挙げられる。お昼の食堂での会話に直ぐに入り込み、年上のパートさんたちとも人間関係を上手く築けていた。人間関係・コミュニケーションを早く築く力は、考えや背景、役割が違う人が集まる職場という「場」で仕事をしていくには特に重要な能力である。

私はその点を高く評価したところ、これまで自身で気付いていなかったことに気付いたようである。

結果として、企業の職場で働く一般的スキル、力は十分備えることができ、職場という場での人間関係づくりの資質も身に付けられたものと考ええる。

(2)「三重県民のエネルギーに関する意識調査」

①アンケート票の作成、実施

小俣氏としてあまり知識のないところから、資料を集めたり先行の調査を勉強し、調査の目的・最終的な成果のイメージを検討してもらった。アンケート票の作成は高いスキルが求められるが、限られたスペース・設問数で把握したい項目をストーリー性を持って配置し、回答者がその設問を意図のとおり理解して回答してもらえるよう、西村先生、熊田先生のアドバイスもいただきながら、アンケート票作成に取り組んだ。

最終、一般県民向けとして、目的に合致した、比較的答えやすくバランスの良いアンケート票になったと考える。

また、調査実施のため、小俣氏に市役所や集客施設、セミナーの主催者などに協力依頼を行ってもらった。依頼状を作成し、電話でもお願いして、日程や実施場所・方法を定めるなどの業務を担当いただいた。連絡が取れなかったり、なかなか協力が得られなかったと、苦勞もしてもらったが、本人の評価として、「その過程で多くの人と関わりながら仕事をする楽しさを知ることが出来た。この経験から、以前より自分から積極的に人と関わり、新しい環境に飛び込んでいく自信が少しついた」としていること

から、良い効果があったものとする。

この調査は小俣氏の教育ということもあり、当社でも人的コストがかかるのでよほど予算がある調査でないといけない、県内全域・各地に人を派遣しての、面接調査形式で行った。見ず知らずの人に話しかけ、アンケートに協力を依頼するというのは、我々調査機関の者でも緊張する業務であるが、小俣氏は調査対象者（一般県民）との間合いを上手く取り、多くの調査票を集めていた。一人でその場を担当することもあったが、役所等場を提供いただいている方や調査対象者とのトラブルもなく、安心して任せることができた。

②アンケート調査の集計・分析

アンケート調査の集計・分析にあたっては、どのような切り口から集計・分析を行うか、全体の流れやクロス集計での傾向の明確さなどを勘案して報告書に掲載する集計結果はどれにするかなど指導を行いつつ、小俣氏に主となって検討してもらった。また、エクセル上で相当量のデータを扱うことにも慣れてもらった。

小俣氏自身の評価として、「大量のデータをエクセルで処理する際の基本的な作業を身につける事ができた」「アンケート調査をする際の基本的な流れを把握することができた」としており、今後何かの際にアンケート調査を行う場合もあると思われ、基本は身に付けていただけたと考える。

(3) 全体として

小俣氏がこのインターンシップで学んだこととして、次のようなことを挙げている。

- ・ 電話応対やアンケート調査票の記入依頼を通じて、どんな小さなことでも相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学んだ。
- ・ 仕事をする際に自主的に判断する部分と、上の方に相談して決める部分を、自分なりに判断することが出来た。
- ・ 三重県内各地の特色や取り組み、三重県経済や世界経済の情勢など、これまで行ってきた研究分野とは全く異なる分野のことを吸収することができた。自分の視野が広がり、以前より柔軟な発想で物事を考えることが出来るようになった。

この言葉から、研究の場から企業で働く、社会と関わっていくという環境変化への接続を手助けするという役割を、当社として小俣氏に

一定果せたのではないかと考える。

また、インターンシップを終えてのまとめで、「研究以外の業務に携わり、自分がこれまで行ってきた研究職という道についてももう一度考え直す機会を得た。自分が本当にやりたいことが何なのか、目標に到達する上で本当に自分に足りないものが何かという問いに、自分なりに現時点での答えを出すことが出来た」とも小俣氏は述べており、進路を考えるにあたり、何らかの参考となったとすれば幸いである。

当社職員にとっても小俣氏の存在は新鮮なものがあり、考え方や発想、感性、また、方法論の違いなど、刺激になったと考えられる。私としても、インターンシップ生を受け入れての事業ということで、楽な道を通らず、基本に立ち返って業務を行うことが出来たように考える。

3. 課題

当社での実施には今回大きな問題となったことはなかったが、次のような課題が感じられた。

(1) 実施時期について

実施時期がサンドイッチ教育の終盤となり、面接など就職活動と重なってしまった。年間に見込まれる事項を考慮しながら、インターンシップを早い時期に決定していく必要があると思われる。

(2) 大学のイベント・事業への参加について
大学院での所属講座の所要や教養向け講師といった、小俣氏本人の予定については早くから分かっており支障はなかったが、その他にイベント等へのかなり急な出席依頼などがあり、インターンシップ先とイノベーター養成講座等のイベント参加のどちらを優先すべきか、小俣氏が悩んでいることがあった。

今後は日程等未確定ではあっても、このような予定があると、インターンシップ生本人とインターンシップ先に、早めにアナウンスをお願いしたい。

4. 最後に

尾鷲市の「夢古道おわせ」でめったにない雪のため来訪者が来ない中アンケートを取ったり、アンケートの依頼に電車・バスを乗り継いで訪問したり、社内でも電話でいきなり分けの分からない質問をされたりと、小俣氏にはこれまでにない体験をしていただいたと思う。本当にご苦労様でしたと、また、ありがとうございましたと言いたい。

企業で仕事をするスキルの一端を身に付けていただいたことも重要だが、人との関係づくりという点で、小俣氏が今回のインターンシップを深く受け止めていただいたことは、指導をさせていただいた者として望外の幸せであった。

また、ご指導いただいた西村教授、熊田先生、また、アンケート調査実施に協力いただいた市町や施設の皆様に、この紙面を借りて感謝を述べたい。

